

たりするなかで、さまざまなことを感じ、覚えていくことができるからです。教科書の単元を実際の場面において活用する機会になった今回の遠足は、そのことをはっきり証明してくれました。

時間が少ないなかで、的を絞った対策をしているところもある。

オースチン補習授業校（アメリカ・テキサス州 幼三十二人 小八十三人 中十八人 教職員十四人（派遣教員なし））からは、「ピンポイントの取り組みで子どもの苦手をやっつける」と題して、音読と視写について制限時間を設けることで意識を高めた例が報告された。

◆時間制限で意味のまとまりを

意識

本校の園児・児童・生徒は、永住あるいは在米年数の長い者が多い。したがって、日本語の発音や音節からたどらしい子どももいれば、日本語が堪能でも、日本の文化や日常生活についてはなじみのない子どもも多い。

「わ・た・し・の」のように一字一字読む子どもたちに課しているのが、時間制限つき音読の宿題である。これまでの音読では、読

み切るためになりに時間をかけるわりに上達が見られなかった。

しかし「七分以内」などと制限することにより、意味のまとまりごとに読む意識を宿題の音読を手伝う保護者にとってもらえるようになった。その読み方から、子どもがどの語を知らないのかも発見しやすくなる。

低学年で課している視写も同様の理由で時間制限を設けているが、子どもたちには楽しい競争となっている。残りは宿題なので、必死である。

読み聞かせに取り組んでいるところも多く見られた。そのなかから、読み聞かせから話し合いなどへの展開につなげているトールズ補習授業校の例を紹介する。

◆読み聞かせ

国語や生活科の時間に、低学年にはおもに昔話や有名な童話など、高学年には落語から狂言、伝記など、いろいろなジャンルの話の読み聞かせをしています。

その後、低学年には感想を聞き、高学年には読解クイズを出しています。時代背景やものの説明などを加えて話し合いをするなど、できるだけ「お話」だけで終わらな

いようにしています。

トールズ補習授業校の工夫はこれだけにとどまらない。教材を手づくりしたり、映像資料を活用するなどしているという。

◆教材の工夫

国語の教材は手づくりです。ひらがなカードやカタカナカードをつくり、一年生にデータで渡し、自宅で印刷して授業に持ってきてもらいます。「主語」「述語」カード（いろいろな文章をつくるため）、体の名称カード（見せて、指さしてもらおう）、数字の漢字カード（子どもたちに並べ替えてもらい、千の位までの数を言い、漢字でつくってもらおう）などのカードもあります。

また、カードに書かれたものをことばで説明し、ほかのみんなが当てるゲーム用のものもあります。

生活科では、PCやタブレットで短い映像を見せたり、プリントにたくさん写真や絵などの資料を添付しています。テーマは毎回変わり、歴史、地理、理科、文化など、幅広く勉強しています。

毎年夏休みには、写真や夏休みの思い出の品（地図、貝がらなど）を持参し、みんなの前でプレゼンをしています。

作文・

小論文指導

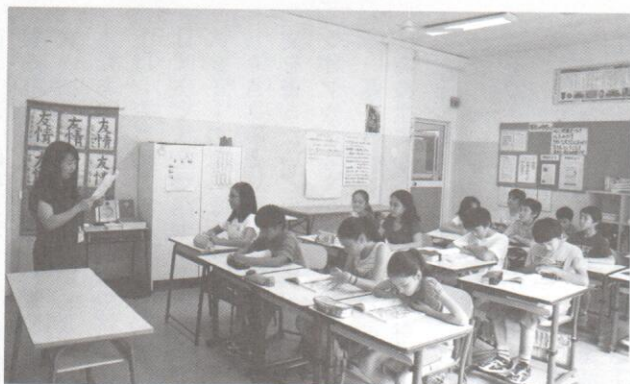
ふだん、現地のことばや英語で学校生活を送っている子どもたちは、どうしても「日本語で書くこと・考えること」の経験が不足しがちになる。不自由なく話している、日本語で思考したり表現したりすることが苦手な子は多い。日本語の会話が自然であればあるほど、保護者も周囲もそれを見過しがちだ。

「日本語で書くこと」の教育は、多言語で生活する子どもたちが学ぶ補習校の、永遠のテーマの一つといえるかもしれない。

まずは短い時間を活用して、「書くこと」のモチベーションを上げることに成功している香港補習授業校（中国 幼二十人 小一三八人 中十三人 教職員三十人（派遣教員なし））の例から。

◆10分作文

昨年度の文集を読んだ保護者Mさんから、「〇〇として楽しかった」という感想ばかりで気持ちの表現のバリエーションが少なすぎる、もっと書く訓練をさせる方法はな



小6の授業風景 教室はミラノ日本人学校の校舎を借用している

「だれの作文かな??」

六年生クラス（十八人）では、毎週、数人の作文を授業のはじめに読み上げます。最初は「恥ずかしい!」という声が多く、名前は伏せて読んでいましたが、読み終わるとそっと手を挙げて名乗ってくれるようになりました。「だれの作文でしよう?」と問いかけると、皆、さまざまに憶測します。さすが、幼稚園から七歳近くいっしょに学んできた仲間、よくわかっているなあというときもあれば、週末だけのクラスメイトの意

外な面に驚く場面もあります。

この取り組みは、昨年度担任した中学部二年から始まりました。中学生ともなると「先生、個人情報、個人情報!」などと名前を読まれるのを恥ずかしがる子もいて、名前や固有名詞の部分を「べけべけ」として読んでみました。すると、だれが書いたものを当てようとして、より真剣に聞くようになり、読まれた本人も最後に名乗る形で定着しました。子どもたちはイタリア語で意見を主張したり、美しいイタリア語を話したりする訓練はされていますが、

日本語は家庭内でのルーティンな日常会話だけにありがちです。家庭内では以心伝心で通じてしまう部分があります。しかし、みんなの前で作文が読み上げられると、自分の日本語を客観的に聞くことができます。自分の文章でみんなが笑ったり感心したり共感したりするのは、生きた日本語、自分の思考を人に伝えるための国語・日本語学習への強いモチベーションになると考えます。この取り組みをおして、以前よりもっと長い作文を書くこととする子どもたちが増えてきて、いい相乗効果となっています。

いものか?という相談があり、小学部三年クラスで「10分作文」を始めました。

先生が添削指導するのではその日のうちに返却することが難しいので、Mさんが一人ひとりにコメントし、帰りの会で返却してくれています。二学期からは協力してくれる保護者を数人の当番制にする予定です。

話すのはいいけど書くのは苦手という子が多いので、一回目は筆が進まず一行も書けなかった子もいました。それが回を重ねることに書ける量が増え、Mさんのコメントを楽しみにしています。

テーマはMさんと三年生担当の先生がたとえ、毎週メールで相談します。Mさんのコメントには先生がたも返却前に目を通します。現段階では、文法よりも書きたいモチベーションを後押しし、うまく書いていなくても言いたいことを汲み取れることを大切にしています。

作文用のノートに書いているので、前のページを見ればその成長が明らかです。10分作文は通常の作文ほど抵抗感がなく、書くことへのやる気を伸ばす意味では、たいへん有効だと思えます。いち



保護者による作文指導（香港補）

ばん手ごたえを感じているのは子どもたち自身かもしれません。

作文を書くには、何よりも、「これについて書きたい」という本人のモチベーションが必要だ。

それを高めるために、ペラ補習授業校では、「国語の授業において、音読や計算また日記など、子どもたちと相談しながら、自分で目標を決めさせています。作文や俳句の単元では、子どもたちといっしょに面白い作品をつくりながら発表をし、意見を交換して仕上げていっています」という。

ミラノ補習授業校（イタリア）
幼十七人 小一二十八人 中三十人

一日の終わり、スクールバスで帰る子どもたちに、大きく手をふる。暑い日も雪の日も、「また来週会おう」の気持ちを込めて。

適応と異文化の壁はねのけて
バックパック背負う子等くる

世界中の補習校を支える大人たちは、子どもたちの学びと成長のためにがんばっている。だからこそ、子どもたちもがんばって補習校に通ってくるのだろう。

これが補習校



運動会に触れたレポートは多かったのだが、その中から香港補習授業校【レポート4】、マディソン補習授業校【レポート5】、ダブリン日本補習授業校（アイルランド 幼七人 小十三人 中一人 高三五人 教職員八人（派遣教員なし）【レポート6】の三校を紹介して、この特集を終わりたいと思う。

なお、【レポート5】のマディソン補習授業校からは、運動会の写真を送ってきてくれた際のメー

ルで、こんな追記をいただいた。「あの日はこんなに空が青かったのか」ということに初めて気がつきました。とてもよい天気になってくれたのは覚えているのですが、ずっと進行に集中していたせいか、きつと空を見なかったのだ

と思います。見上げたかもしれないですが、覚えていません。写真を見ながら、少し不思議な気分でした。読みながら、慣れない運動会の進行に必死で走り回っている先生たちの姿が思い浮かんだ。

届いた写真には、抜けるような青空の下、はじけるような笑顔で芝生を駆ける子どもたちと、それを温かく見守っているたくさんの大人たちの姿。まさに「みんなが支える補習校」を絵に描いたような写真だった。

「レポート4」香港補習授業校より

手づくりの運動会

「道具がない」「道具を買うと保管場所がない」と嘆かずに、身近なものでつくったり代用したり楽しみながら工夫する、オリジナルの運動会が自慢です。親子競技や借り物競争、カルタ取り、玉入れ競争など、日本らしい運動会にこだわっています。

五月の授業で、一人一枚ずつ担当してA3の画用紙にカルタの絵札を描きました。当日は約一〇〇人が三グループに分かれて、先生が読み札を読み上げると一斉にカルタの争奪戦です。自分の描いた絵札がかならずあるので、いっそう盛り上がりました。

△テープでぐるぐる巻いたもので代用します。一人三個ずつくり、保管場所がないため、当日持ってきます。ランドリー用のカゴを先生や保護者が頭の上に乗せて走り回ります。カゴが動き回るので、なかなか玉が入らず夢中でカゴを追いかけます。カゴ持ちの大人はクタクタですが、とても盛り上がりま

○追っかけ玉入れ
玉入れの玉は新聞紙を丸めてガ

○借り物競争
三、四人一組で五個空き缶を積

み上げてから借り物カードを引き、「歴代横綱五人答えられる人」や「おしゃれメガネをかけている人」などチームで協力しながら、借り物？借り人？を探しゴールします。空き缶も当日回収、終了後はリサイクルごみへ。

○応援合戦

毎年六年生が応援団長を担当します。日本らしい応援をするために鉢巻きだけはこだわり、手芸が得意な日本人のかたにお願いして、背中に垂れる長さでつくってもらいました。



大型カルタ取り



追っかけ玉入れ